

家の周囲の危険度をチェック

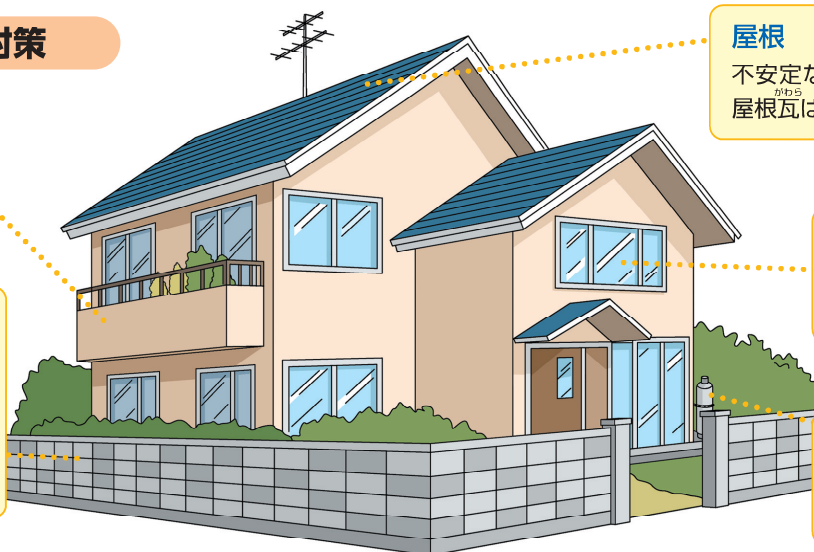
家の周囲の安全対策

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。



屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

プロパンガス

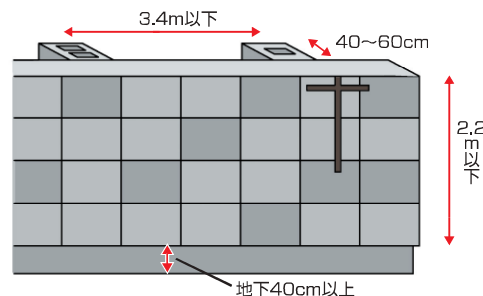
ボンベを鎖でしっかり固定しておく。

ブロック塀の安全対策

不安定なブロック塀や門柱は、地震のときに凶器になってしまいます。しっかりと点検、補強しましょう。

安全なブロック塀の目安

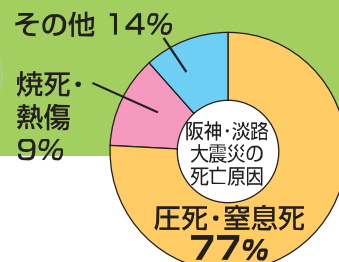
- 傾きやひび割れ、破損箇所はないか。
- 高さが高すぎないか（2.2m以下、ブロック厚さ15cm以上）。
- 鉄筋は縦筋と横筋がきちんと固定されて入っているか。
- 基礎コンクリート（地下40cm以上埋め込む）はしっかりしているか。
- 支えとなる控え壁は設置されているか（3.4m以下の間隔で設け、40～60cmの長さを確保）。
- すかしブロックや面とりブロックなどの化粧ブロックはできるだけ使用しない。



家も家具も「倒れない」が非常に重要!!

阪神・淡路大震災では死亡原因のうち、約80%が家屋倒壊や家具転倒による圧死・窒息死でした。大地震で被災しないための第一歩は家屋と家具が倒れないようにすることです。

昭和56年5月以前に着工した木造家屋を対象に無料の耐震診断が受けられる制度があります。詳しくは、各市町の担当窓口へお問い合わせください。



【阪神・淡路大震災調査報告 総集編】
（阪神・淡路大震災調査報告編集委員会、2000年）より

こういう建物は要注意

- 1階がピロティ、車庫、店舗などで壁が少ない。
- 2階に重たい家具やピアノなどがある。



- 凹凸が多く、複雑。
- 壁が少ない面がある。



- シロアリ被害がある。
- 昭和56年5月以前に建てられた。

